

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2024年9月6日時点)

▶ ウクライナ軍が露西部クルスク州への越境攻撃を実施する一方、露軍は、同攻撃に対応しつつも、ウクライナ東部への攻勢及びウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を継続している模様

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT23年8月18日)

: 死者約18万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

: 死傷者50万人以上 (英国防省24年5月31日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT23年8月18日)

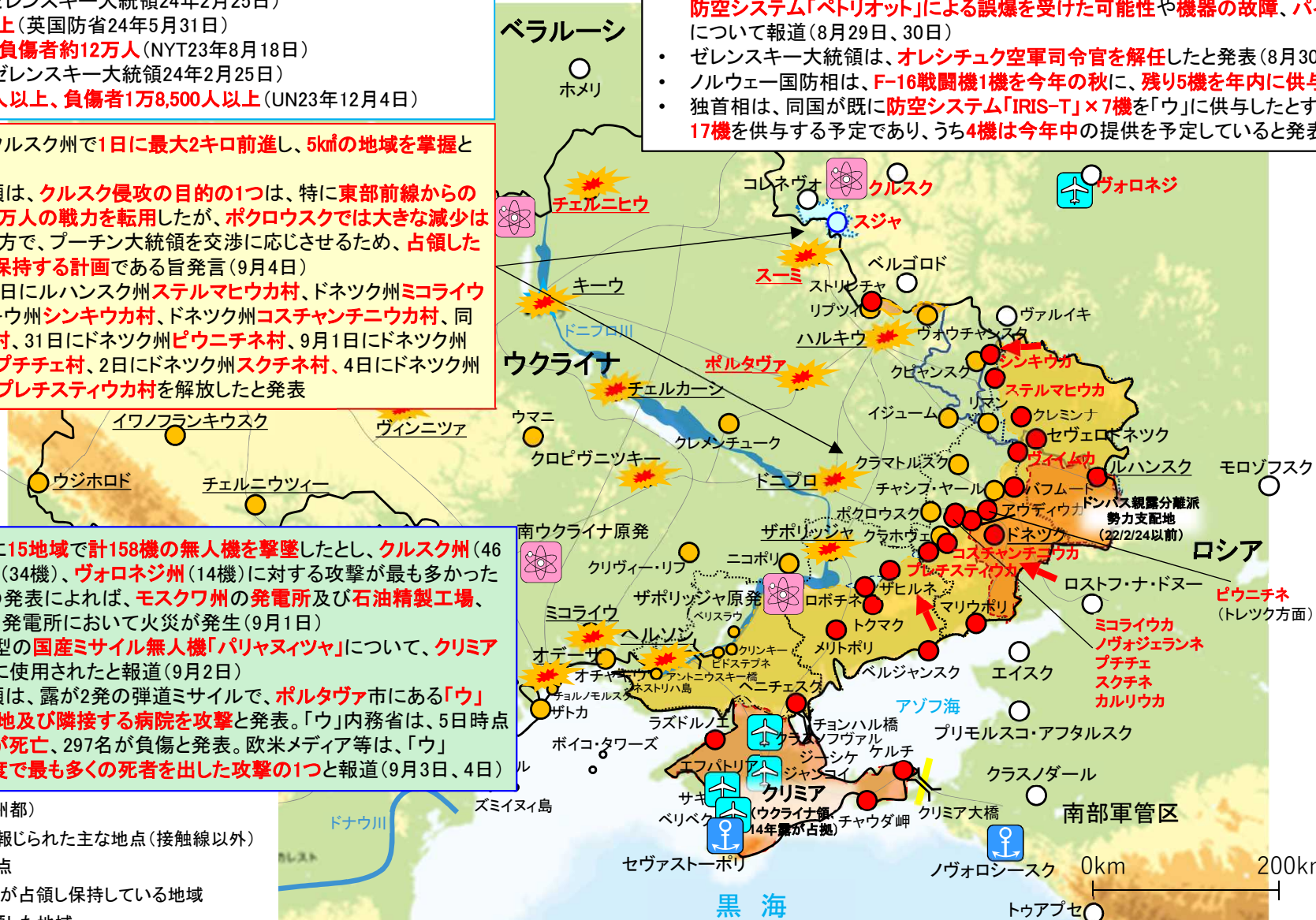
: 死者3.1万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,500人以上 (UN23年12月4日)

- 「ウ」総司令官は、クルスク州で1日に最大2キロ前進し、5km²の地域を掌握と報告 (8月30日)
- ゼレンスキー大統領は、クルスク侵攻の目的の1つは、特に東部前線からの露軍撤退で、露は6万人の戦力を転用したが、ポクロウスクでは大きな減少は見られないとした一方で、プーチン大統領を交渉に応じさせるため、占領した露地域を無期限に保持する計画である旨発言 (9月4日)
- 露国防省は、8月29日にルハンスク州ステルマヒウカ村、ドネツク州ミコライウカ村、30日にハルキウ州シンキウカ村、ドネツク州コスチャンチニウカ村、同州ノヴォジェランネ村、31日にドネツク州ピウニチネ村、9月1日にドネツク州ヴィムカ村、同州プチェ村、2日にドネツク州スクチネ村、4日にドネツク州カルリウカ村、同州プレチスティウカ村を解放したと発表

- 露国防省は、一晩に15地域で計158機の無人機を撃墜したとし、クルスク州 (46機)、ブリャンスク州 (34機)、ヴォロネジ州 (14機) に対する攻撃が最も多かったと発表。露当局等の発表によれば、モスクワ州の発電所及び石油精製工場、露北西部ベリ州の発電所において火災が発生 (9月1日)
- 「ウ」メディアは、新型の国産ミサイル無人機「バリアヌイツャ」について、クリミア半島に対する攻撃に使用されたと報道 (9月2日)
- ゼレンスキー大統領は、露が2発の弾道ミサイルで、ポルタヴァ市にある「ウ」軍事教育施設の敷地及び隣接する病院を攻撃と発表。「ウ」内務省は、5日時点で、少なくとも54名が死亡、297名が負傷と発表。欧米メディア等は、「ウ」侵略開始以来、一度で最も多くの死者を出した攻撃の1つと報道 (9月3日、4日)

- 「ウ」軍情報総局は、露ミサイル攻撃の迎撃に当たっていたF-16戦闘機が墜落し、パイロットが死亡したとし、原因を調査するため「ウ」国防省下に特別委員会を設置と発表。欧米メディア等は、防空システム「ペトリオット」による誤爆を受けた可能性や機器の故障、パイロットのミスの可能性について報道 (8月29日、30日)
- ゼレンスキー大統領は、オレシチュク空軍司令官を解任したと発表 (8月30日)
- ノルウェー国防相は、F-16戦闘機1機を今年の秋に、残り5機を年内に供与すると発言 (9月4日)
- 独首相は、同国が既に防空システム「IRIS-T」×7機を「ウ」に供与したとするほか、今後新たに17機を供与する予定であり、うち4機は今年中の提供を予定していると発表 (9月4日)



- 主要都市 (下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点 (接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☁ ウクライナ軍が占領した地域

国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等